

イギリスは歴史的に階級社会であるとされ、階級差は英語の発音に表れます。 階級のトップに立つロイヤルファミリーの言葉は模範的な容認発音 (RP) と呼ばれ、 上品で教養ある響きをもちます。

> 今特集では、そんなクイーンズ・イングリッシュの魅力を 英国王室の歴史・文化とともに紹介します。

執筆・監修:米山明日香(青山学院大学准教授) イラスト:松本沙希



クイーンズ・イングリッシュ入門

1066~1154年

在のフランス)のギョームがドー バー海峡を渡って侵攻。ノルマン 王朝を成立させる。現在の英国王 室の源流とされ、多くの英単語の 語源がフランス語由来なのも、こ の侵略の影響が大きいとされる。

1154~1399年



英語が普及した ランタジネット朝

十字軍遠征やフランスとの領地争いによる国力 衰退を受け、貴族が反発し、王族の権力制限が 始まる。現代民主主義の礎となるマグナ・カルタ が承認され、議会制度が生まれた。公の場で英 語の使用が増えたのもこの時期。

♠ 初代国王の

1603~1649年. 1660~1714年



※ 絶対王政の全盛

絶対王政全盛で繁栄を極めたエリザベ ス1世が世継ぎを潰さずに亡くなると、 スコットランド王ジェームズ6世が、 イングランド国王ジェームズ1世を兼 任する事態に。清教徒革命により一時 共和制になるが、1660年には後期ス チュアート朝として王政復古。大ブリ テン王国が誕生する。

○ジェームズ1

Great Britain

南部英語

北部英語

ロンドン以南の地域で話 されRP(容認発音)に近 いとされる。労働者階級 の話し言葉はコックニー (Cockney).

ニューカッスル周辺の

ジョーディー(Geordie)、リ

バプール周辺のスカウス

(Scouse)、バーミンガムの

ブラミー(Brummie)など。

England

927

イングランド王国 の誕生

多くのアングロ・サクソン人 がブリテン島に移住し、部族 国家が乱立した七王国時代(へ プターキー)を経て、ウェセッ クス王エグバートがイングラ ンドの南部を支配。927年に アゼルスタンが全土を統一し、 イングランド王国が誕生した。

ウェールズ英語

/r/の発音は、日本語の ラ行の発音と同じような たたき音で発音される。 今でもウェールズ語を話 す人が多い。

1282

ウェールズ 征服

元々はウェールズ公国が存在 していたが、招集を無視し、 自立するような構えを見せた ウェールズ大公を、イングラ ンド国王は反逆者と宣言。エ ドワード1世の侵攻により イングランドの支配下に。

England

スコットランド 英語

独自のアクセントと 語彙がある。一例と してdo not/don'tは dinna. knowlt ken. I don't know は I dinna ken.に

1707

スコットランドと 連合

6世紀初頭からスコットランドには 正式な王がいたが、11世紀にはノ ルマン朝による侵攻が始まり、13 世紀末に内政干渉が始まる。1603 年にエリザベス1世が世継ぎを遺 さずに亡くなるとスコットランド王 はイングランド国王を兼任。後年、 大ブリテン王国が成立。

英国王室 千年の歴史

「グレート・ブリテン及び北アイルランド連合王国」の国名通り、現在のイ ギリスは複数の国が1つの連合を成しています。イギリスが立憲君主制へ と移行したのは17世紀頃で、それまで各王朝は絶対君主としてブリテン島 を支配してきました。連合の成立過程では多数の領地争いが発生し、異な る文化の衝突は今話されている言葉にも影響を与えました。王室と国家の 成立過程、そしてクイーンズ・イングリッシュの起源をたどってみましょう。

1801

アイルランド併合

清教徒革命で勝利したクロムウェルは、 アイルランドも事実上植民化。植民地支 配下では国民の大半を占めるカトリック 教徒に選挙権が認められず、差別撤廃を 求める反乱も発生した。カトリック教徒 の一部権利回復と引き換えに「合同法」が 成立。アイルランドは連合王国の一部に。